

Japan Society of Civil Engineers  
International Activities Center

### 巻頭言

## 会長就任挨拶 学会活動を通じた次世代を担う土木技術者の育成



公益社団法人土木学会  
会長 廣瀬 典昭

土木学会は昨年創立100周年を迎え、各種の記念事業や記念式典を開催しました。これらの行事を通じて本部と支部が協力して学会活動が大きく盛り上がりました。同時に中期行動計画としてJSCE2015を策定しました。ここでは中期重点目標と、この5年間で取り組むべき10項目の重点課題を設定いたしました。

重点課題の要点としては(1)自然災害に強いしなやかな国土の形成による持続可能な社会の基盤の創出、(2)原子力発電所事故対策への土木技術の集約、(3)高齢化するインフラの延命化や更新への戦略的な取り組み、(4)地球規模での環境・エネルギー問題への対応、(5)少子高齢化社会へ向けた地域経営や都市構造の再構築、などへの土木技術の結集に加え、(6)次世代を担う土木技術者の育成、(7)日本が築き上げてきた土木技術の国際的な技術移転の推進と開発途上国や新興国におけるインフラ整備への貢献、(8)情報発信や市民との交流によるインフラへの理解の促進、(9)より多様化し複雑化するインフラ整備に関連する他分野や他機関との連携、(10)学会活動における組織間の連携の強化や参加者の多様性の確保と地域活動の活発化など、となります。

これらの活動は、すでに始まっているものもありますが、それぞれに活動主体を決めアクションプランのもとに実行していきます。今年はその第一年目の年となりますので、実施計画とそのモニタリングの仕組みを構築し確実な実行を行ってまいります。

その実行にあたっては、さまざまなバックグラウンドを持った技術者、とくに若い技術者や女性技術者の参加を求め、この活動を通じて次代の技術者の育成に資するような活動を展開していきたいと考えています。先達やシニア技術者の経験・知見を継承することもこの活動の大きな力になるものと思われま

す。また、国際活動の一つとしてアジア土木学協会連合協議会(ACECC)が主催するアジア土木技術国際会議(CECER)は3年に一回開かれますが、2019年には日本で開催されることが決まりました。この準備の開始、さらにはACECCのTC活動の活発化を通じ、アジア各国の学会や土木技術者・研究者との交流を深めてまいります。



第103代会長 廣瀬典昭 定時総会における就任挨拶

## 日本での更なる研究を志して ～留学生体験記～

山梨大学 Parmeshwar UDMALE  
国際流域環境研究センター



私は、山梨大学国際流域環境研究センター国際流域総合水管理特別コースに2012年から2015年まで在籍し、工学博士号取得を目指しているインド人の留学生です。日本の製品やテクノロジーについては子供の頃からよく耳にしながらも、日本で研究ができることは夢にも思いませんでした。しかし、文部科学省の制度のおかげで、日本で博士号取得を目指す機会を得ることができました。

日出ずる国、日本は、春にそのピークを迎える美しい自然に恵まれた国です。私が日本に来て驚いたのは、道路の清潔さ、効率的なごみ処分のシステム、理想的な水供給と衛生管理、景観計画、そして停電にならないことなどです。日本の鉄道の正確さは他に比べようありません。電車の平均的な遅れが1分以内ということには中でも最も驚きました。地震多発国であることから、日本では建物の構造や設計に関する独自の基準が設けられています。そのため地震の危険性について不安を感じたことはありませんし、防災訓練と同様、地震訓練にも適宜参加するようにしています。

日本の高等教育についての感想ですが、教授と学生との関係はとても友好的だと言えます。ただし、先生方は計画進行の予定を厳しく守っておられ、学生たちにもそれを求めます。先生方は大変親切で、山梨大学の留学生が快適に生活できるよう、いつも手助けを惜しみません。大学内で学校生活を送るうえでの言語の壁はありませんが、学外でのコミュニケーションのためには、日本語を少し覚えたほうがよいです。山梨大学の留学生センターでも、日本語を学ぶ機会

が提供され、学習サポートや生活ガイダンスや相談を受け付けています。同センターでは留学生同士の文化交流を促進するためのさまざまな企画、例えばスプリングパーティやお祭り、名所旧跡ツアーなども行っています。

私は、山梨大学国際流域環境研究センターで学生から研究者の道へ進むことになりました。国際流域環境研究センターでは、水工研究分野、水質研究分野、微生物・処理研究分野、計画研究分野、医学研究分野という、国際流域総合水管理特別コースの構成要素を考慮した、5つの内容の教育を行っています。国際流域環境研究センターは、独自のカリキュラム（講義、特別演習、研究室での実験、フィールドリサーチなど）の他、専門家を招いての特別講義を開催することもあります。例えば、松本重行氏（水管理、JICA）による「開発従事者が思うこと」という対話形式での講演がそれにあたります。これらの主な目的は、学生たちに問題解決能力を身につけてもらうことにあります。センターでは、海外の教授やゲストスピーカーを招き、最近の取り組みについて聞くことで、学生達の国際的な視野を養い、風間ふたば教授が率いるネパールでの5年にわたるプロジェクト、SATREPSのような、国際協力や海外での研究活動を促進しています。

授業の他、市川温准教授（現在は京都大学所属）と石平博准教授からは、学生時代に出版物についての倫理、道徳について教えていただき大変役立ちました。研究期間中、先生方からインスピレーションや全面的なサポートを受けて、科学会議、国際会議（インド、ニューデリーでの2013 IPWG、



武田信玄時代から使われている聖牛による河岸保護



グループワークでの発表の様子

神戸での土木学会の2014年水工学講演会、カナダ、モンテリオールでのWWOSC2014、スペイン、バレンシアでのICDrought2015、インターンシップや研修プログラム(2014年、オーストラリア、ニューカッスル大学でのインターンシップ、日本の筑波大学でのIPWG2014)に参加しました。これらの活動を通じて、自分の技術力を高めるとともに、世界各地での研究活動について知識を深め、同じ分野の研究者間の連携を強化することができました。

私は日本で工学博士の勉強ができて幸運だと思いますし、山梨大学で人生最高の時間を過ごしています。博士号取得の後には、日本で仕事をするか、将来の共同研究に向けた日本の大学との研究プロジェクトで働きたいと思っています。

(略語)

- ・IPWG: International Precipitation Working Group
- ・WWOSC: The World Weather Open Science Conference

## 委員会活動

# 建設マネジメント委員会における国際交流活動

土木学会建設マネジメント委員会  
委員長 福本 勝司



建設マネジメント委員会では、国際交流活動を推進・活発化するために、前委員長の小澤一雅氏（東京大学大学院）が、平成22年度から常置小委員会の一つとして、国際連携プロジェクト小委員会を立ち上げた。現在の体制においても、国際交流は重要な活動領域の一つとして位置付けている。

小委員会の立ち上げ期には、本小委員会で実施すべき活動について、熱心な意見交換を行った。大きなテーマとしては、①日本の売りとは何か、②日本に求められるもの、の二つに集約された。前者の例としては、技術、示方書、制度、愚直な誠実さ、共生の哲学等が、後者の例としては、Total Management、若い世代の参画、新しい事業手法の導入・習熟、英語での発信等、が挙げられた。このような議論を経て、小委員会活動の方向性として、a) 国際シンポジウムの実施、b) 海外ジョイントセミナーの実施、c) 日本人若手技術者「覚醒」・参画の機会創出の検討、d) 国内在住の海外若手技術者（含留学生）のネットワーク構築、の四点を掲げた。

これまでは、b)の海外ジョイントセミナーの実施に焦点を当ててきた。インドネシアでは3回（2011、12、13年度）、ベ

トナムでも3回（2012、2013、2014年度）のセミナーを開催してきた。両国とも、第一回のセミナーでは、建設マネジメント全般に関わる現状を報告・共有し、徐々に主題を（日本の強みである）品質管理手法・品質保証システムに移して討論を行っている。日本側からは、戦後公共事業・工事執行システムの有効性・効率性と共に、転換期を迎えている旧執行方法の問題と悩みを正直に伝えている。これに呼応するように、先方の行政官からも現在の問題点とその改善方法に関する率直な発表が行われてきた。このような率直な情報共有・意見交換が、両国との交流が続いている一因であると感じている。

今後は別の国で同様なジョイントセミナーを企画・実施しつつ、上述の a)、c)、d)の方向性についても、活動を充実させていきたいと考えている。

土木学会からは、ジョイントセミナーの実施に際して、温かいご支援・ご協力を頂いている。この場を借りて、感謝申し上げる次第である。

ありがとうございました。



2011年ジャカルタでのジョイントセミナー開催



講演者およびスタッフの集合写真

## イベントカレンダー

### ●2015年8月10日

2015 北海道道路国際シンポジウム -人間社会とリスク-

<http://www.jsce.or.jp/committee/ip/events/50years/finished/2.shtm>

(会場：京王プラザホテル札幌)

### ◀2015年全国大会国際行事 岡山大学▶

### ●2015年9月16日

・国際円卓会議 (International Roundtable Meeting) 「ビッグデータ時代の社会資本の整備 - 持続可能な開発の実現を目指して」

・国際若手技術者ワークショップ

・特別討論会「元留学生が語る、日本土木への注文」

### ●2015年9月16日～17日

第17回インターナショナル・サマーシンポジウム

## お知らせ

●土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite (英語版) にアップしました。

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

●土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 42が発行されました。

<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

●土木学会創立100周年記念切手が発行されました。

<http://jsce100.com/node/250>

●協定学会European Council of Civil Engineers (ECCE) より、書籍「Footbridges- Small is beautiful」が発行されました。日本の歩道橋も錦帯橋を始め17点紹介されています。

<http://www.ecceengineers.eu/>

## 購読申込み

国際センター通信購読の申し込みは以下のURLよりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

国際センター通信配信希望者登録フォーム

・日本語版

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>

・英語版

<http://www.jsce-int.org/node/150>

## 掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

## 編集後記

数日前、首相が新国立競技場の建設費を1800億円に削減することを検討すると発表しました。その前は、ある政治家は、“建設費はたったの2500億円”と言っていました。まだしばらくの間、論争や批判は続きそうです。もちろん私も新しい競技場、新しい設備、新しい道路を見たいという気持ちはあります。でもスーパーモダンな、巨大な競技場は本当に必要なのでしょうか？人に優しい設備や工夫がされた、50年後もよい競技場だと楽しんで使ってもらえるような競技場を建設する方が、価値があると思うのです。

〈ご意見・ご質問〉 JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。